



第六回 農工大大会

コースの こだわり紹介

コースプランナー
農工大OLC 39期・榎会
早川徹彦

<前提>

①ロング競技！

既存の「毘沙門山」から地図範囲を拡大することから決定。

時期的に全日本ロングやインカレロングの前ということで、セミロングよりはむしろ、本格的なロング競技の機会を提供して集客を狙う方針となった。

閲覧専用



閲覧専用

MAS 3.9km ↑150m

Sクラスでもルートチョイスのあるロングレッグを用意した。

②山越えの有無を用意！

山越えの体力的負荷が非常に大きいことから決定。

参加者が自身の好きなコンセプトのコースを走れるという宣伝文句で、体力的負荷（L: 山越えあり、S: 山越えなし）と難易度（E、A、B）の組み合わせで男女各6種類のコースを用意する方針となった。

ロング競技で開催することから、Sクラスでもルートチョイスのあるロングレッグを用意し、近年ではロング競技用のトレインとして使われていなかった「毘沙門山」の新しい楽しみ方を提供した。



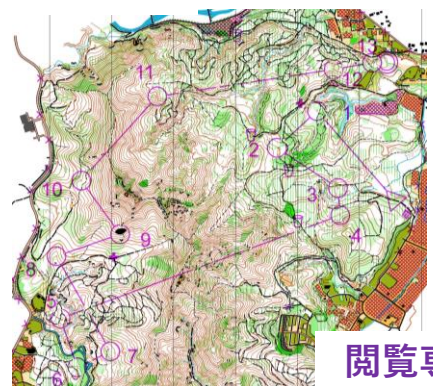
巨岩の隙間の競走

③巨岩コントロールはAL、BLクラスのみ！

新規（西側）エリアの毘沙門山斜面にそびえる巨岩は、それを一目見た運営を一人残らず魅了したため、宣伝のネタにすることが決定した。そこで、巨岩を通過するように様々なコースを組んで検討したが、ELクラスに巨岩のコントロールを組み込むと大胆なルートチョイスのあるロングレッグが減ってしまい、ロング競技としての競技性が半減してしまうことがわかった。

そこで、最上位のELクラスではレッグ線が巨岩を通過するロングレッグを用意し、巨岩を通過するかどうかは参加者の選択に委ねることとした。

閲覧専用



閲覧専用

MAL 6.1km ↑405m

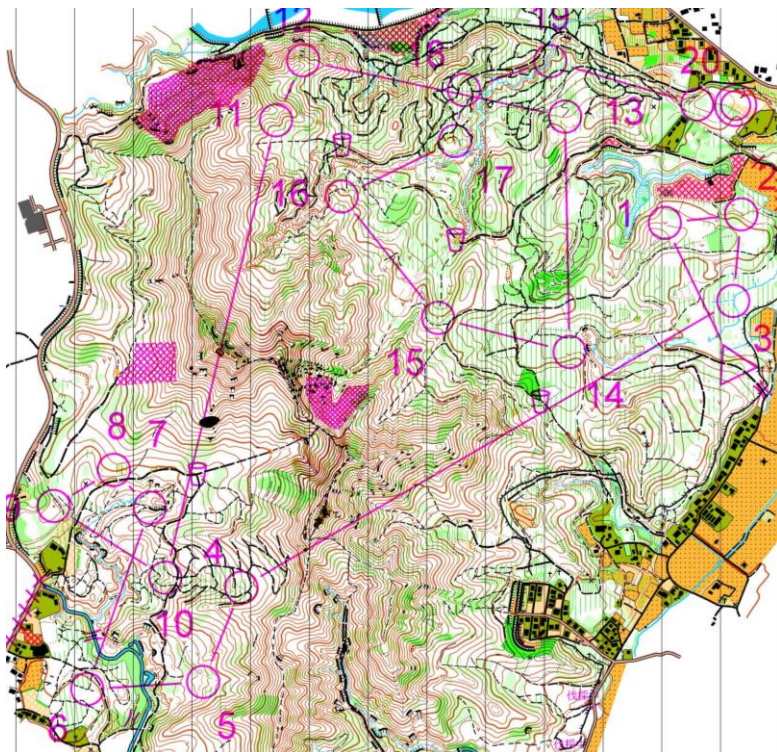
MALクラスでは巨岩にコントロール（9番）を置いてイベント性を重視したが、4-5以外のロングレッグ（11-12）はやや距離的な大胆さに欠けるものとなった。

常識を取り払え！

～ロングレッグのためにスペースを空けてみた～

<8月頭のMELコース図>

8月10日の試走時点では、右のようなコースを考えていた。ここに至るまでにも、スタート、ゴール、コースの回しなどについて何度も検討と試走を重ねているが、特にここからの土壇場のこだわりをご紹介したい。



<問題点>

大胆なロングレッグが山越えのみ

山越えの2本のロングレッグは試走した運営からも好評だったが、東側エリアにおいて、3本目の大胆なロングレッグがある方がよいという意見が出た。

ここで、「大胆なロングレッグ」とは何か。

あくまで一つの意見だが、試走会でコース検討に参加していた数名の中で出た、

「毘沙門山における大胆なロングレッグ」をまとめると次のようなものになる。

「毘沙門山」における大胆なロングレグ

「通過する地形や辿るものが、ルートによって
山塊ごと、もしくは大きな地形ごと異なるもの」

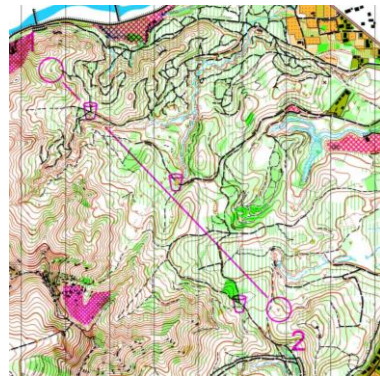
かつ

「初見でルートがすぐに一つに定まらない」

もしくは

「少なくとも、右、左、中央の3ルートが候補に挙げられるもの」
(登高や走行可能度を加味した結果どれかが
通る人の少ないルートになっても良い)

ロングレグだが大胆な
ルートチョイスがない例



<改善点> (改善の余地のある点)

①MALの△→1が面白い！

MALの試走をしていて、△→1が面白いと感じた（前ページの最終版コース図参照）。序盤でどこまで道を引っ張るかの判断、中盤のロングらしいラフの区間、終盤の藪のある中での丁寧な地図読みとアタックが最高だ。

この時点でのMELの序盤の回しは、ロングの序盤として特に問題のない淡々とした、ある意味当たり障りのないもの。これで序盤は問題ないが、なんとかしてこの面白いMAL △→1のようなレグを組み込めないかと考えていた。

②コース距離を伸ばしたい

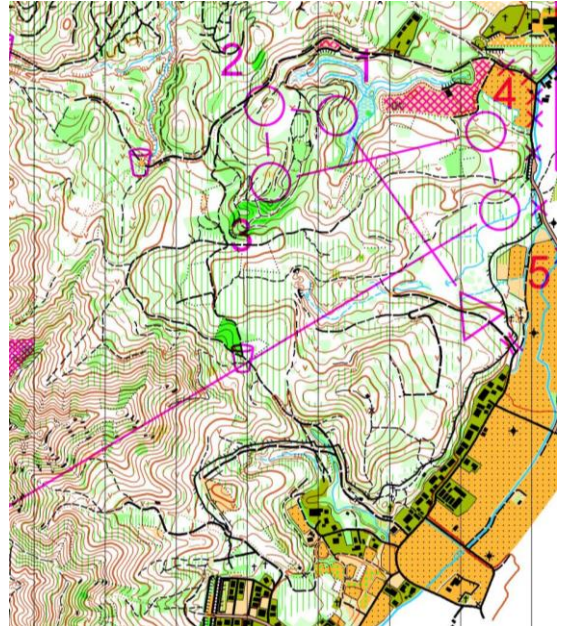
8.5kmでは七十数分の優勝設定にする必要があったらどうか。ウイニングをインカレロングに寄せた80分にすると要項2で言っている以上、可能ならコース距離を9kmくらいにしたかった。



<改善策案（不採用）>

序盤のロングレッグの左右ルートの有
利不利をなるべく変えたくなかった（ロ
ングレッグのルートについては前掲の
「コース解説」のファイルを参照）。
つまり、ロングレッグの始点をずらず
なら、レッグの直線上に限るというわけ
だ。

その上でMALの△→1のようなレッグか
ら始まる回しを考えると、レッグ線の角
度が過度の鋭角（出戻り）にならないよ
うな回しは制限され、コースは迷走して
いく...



△→1のようなレッグを終盤に盛り込むことも考えたが、山越えの2本
のロングレッグを固定して考えると無理だった。

コース検討が煮詰まったところで、とりあえずてきとうにロングの
コースを検索してみることにした。

2017年 全日本ロング @矢板日新

のM21Eのコースがヒットした。出場はできなかったが、以前読んだ
コースだ。

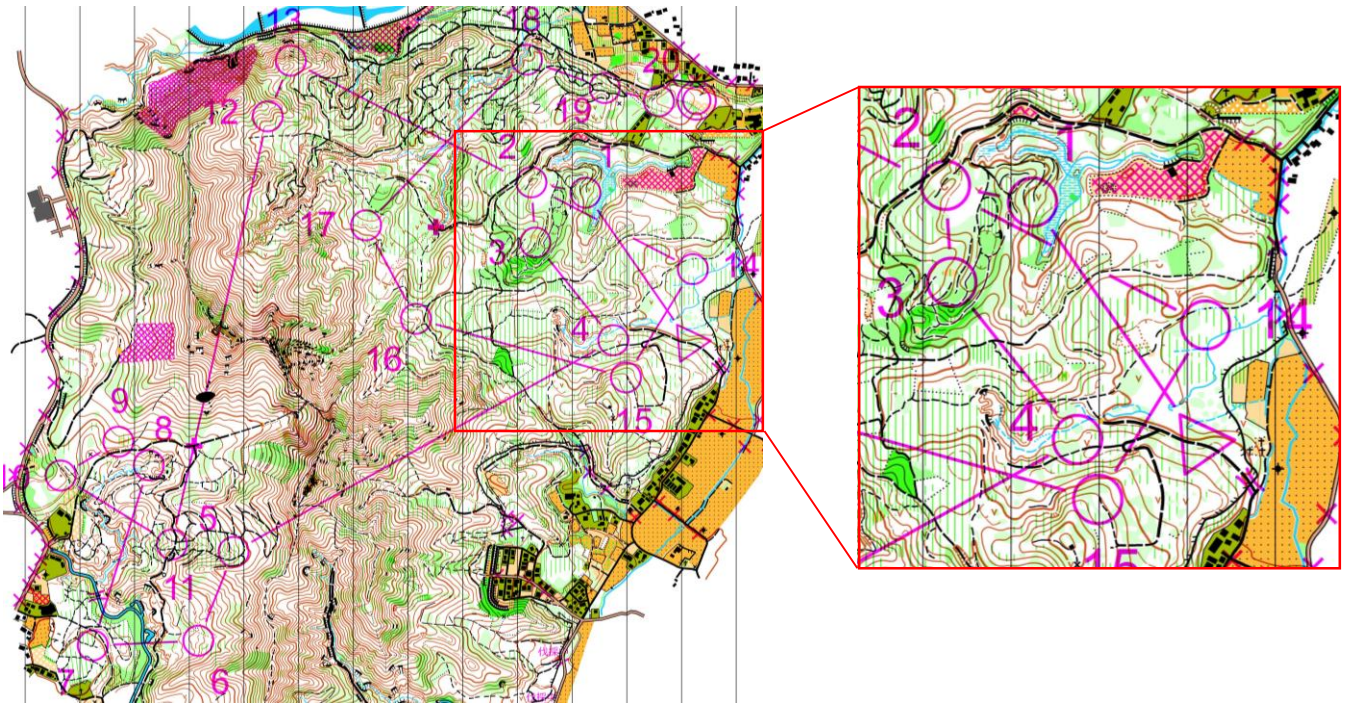
見てみると、2マップ制だったとはいえ、一度通った地点を二度目に
通っていることが多かった。

全日本でこのような二度目の通過がありなのか、と思い、MELのコース
を見返してみた。

「おっ」



< 解決策 >



△→3までで面白いエリアを回したあと、もとの4番の方向へ戻らずにロングレッグへつなぐレッグへ変更。これにより空いたスペースへと、3本目のロングレッグ（13→14）！

もともと、一度序盤に回したエリアにロングレッグで戻ってくるという発想がなかった。理由は二つ。序盤のコントロールピッキングのような回しによりただでさえコントロールが比較的密集していたからと、そもそも一度使ったエリアにもう一度入ることは競技者にとってつまらないだろうと決めつけていたからだ。

ところが、ただ単に同じ地点を再び通過するだけなら悪いコースとはならないことを知った。終盤に再び上図赤枠エリアへと戻ってくるなら、このエリアで序盤に無理に回さなくても距離を伸ばすことができるのだ。

3本目のロングレッグができたことで、トレイン全体をのびのびと回せている印象になったのではないか。

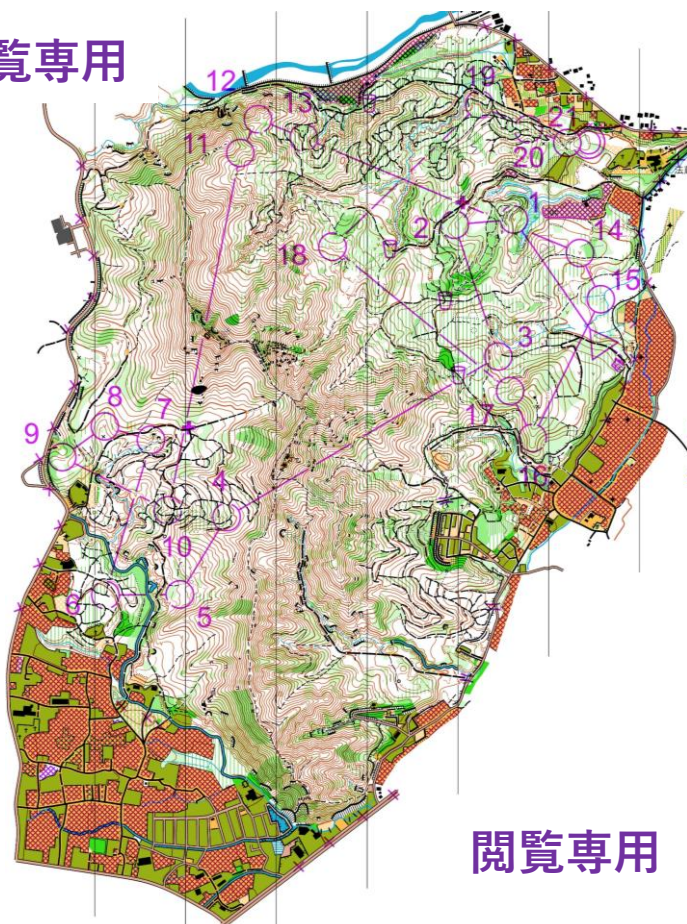


このあと、主に以下の変更を行って完成版となった。

- ・ 救護所の位置が2番のすぐ近くへと変更されたため、2番をずらし、3番を廃止
- ・ 序盤ロングレッグの始点（完成版3番）が出戻りとなる場合があるため、ロングレッグは短くなるが3番を4番に近づける
- ・ 13番コントロールを置く。
2番目のロングレッグ（完成版10→11）のあと、ショートレッグ1つを挟んですかさず3本目のロングレッグが始まる休みない展開を改善
- ・ 16番を山塊の南に置き、序盤の地図読みの視界から消す
- ・ 完成版18番コントロール前後のショートレッグを廃止。
片斜面で面白いレッグだったが、10→11のロングレッグの右ルートで通過する人を考慮してコントロール数を減少

< 完成版 >

閲覧専用



閲覧専用

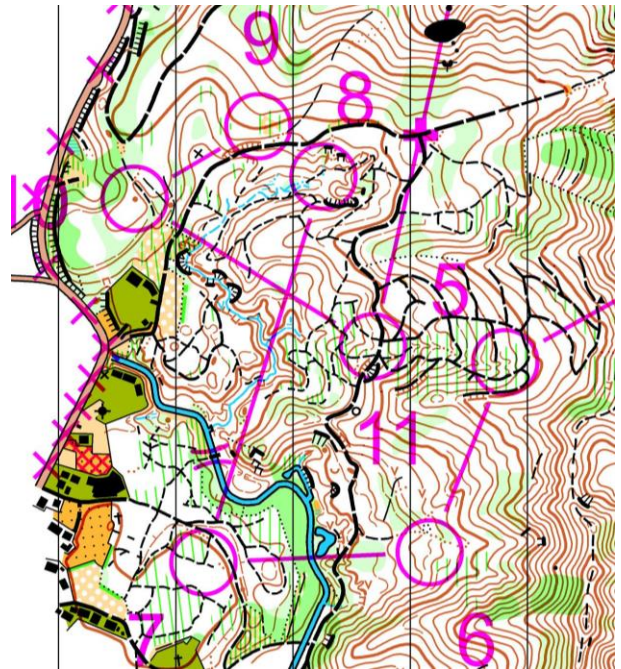
全レグ妥協しない！

～ショートレグの終点を少し伸ばしてみた～

これでおおまかにコースは完成したが、ここからは細かな修正と改善の軌跡をご紹介したい。

西側の新規エリアは見通しが良く走行可能度も高いことから、宣伝にも使っていた。そのため、距離とコースの回しが許す限り色々なレグを組み込みたいと思っていた。

3本目のロングレグが誕生した頃までには、西側エリアの回しは問題なく落ちていた。これでも面白かったが、ここから以下のように修正した。



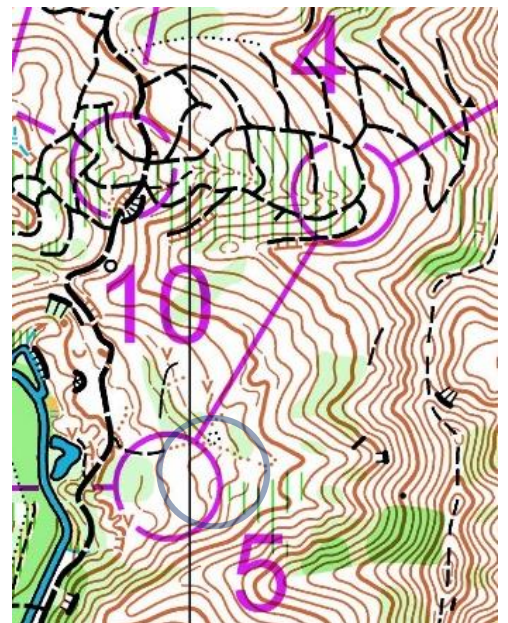
8/12時点のMEL (西側)

①6番を奥に！ (最終版5番)

5→6の下りレグは、コースプロフィールでもうたっていた「斜面上のナビゲーション」を問うレグだ。下りのためスピードが出る中で、チェックポイントの的確な選択と方向維持、そしてポスト周りの微地形の把握を問う意図があった。見通しが良いため難易度が低く、地形がとれればスピードが上げやすい。

一度目の山越えを終えた選手たちへのご褒美ともいえるこの爽快なレグだが、終点を遠くへ置き、レグを長くした。レグ線の左右に藪が増え、難易度は多少上がっただろう。

6→7の序盤は道への脱出で、面白い片斜面エリアが少ない地図読みで通過されてしまうのはもったいなかった。それもあって、6番の位置をより西(下)へとずらすことにした。



完成版のMEL (青は修正前)

②9番、10番を奥に！(最終版8,9番)

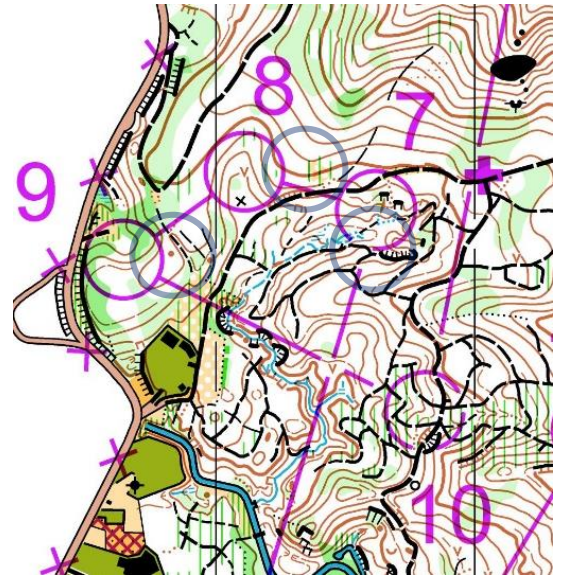
もとの9番は単なる斜め登りレグだ。ラフとファインの切り替えを問えるレグだったが、こちらも終点を伸ばしてみた。

尾根を越えた先の沢に置くことで、斜面上の方向維持の要素を加えられた。新しい位置に変えたことで試走中に穴も見付き、面白いラフのレグとなった。

もとの10番は、小径や細い沢を越えた先のコブだ。これは、下の道に下りるのが遅いためルートチョイスを問う意図と、数回の細かな登りでの方向維持を問う意図を組み込めていて好評だったが、こちらも終点を伸ばしてみた。

新しい位置では、コントロール位置こそ簡単になったが、はじめに一段登る際の斜面上の方向維持を問えるだけでなく、登り後に右にずれすぎると藪を切るが左にずれすぎると深い位置で細い沢を切ることになる面白いレグとなった。

またこれにより、次のコントロールへのルートとして、私有地の南側を通る右(南)ルートを作れたため、より奥深い回しとなった。このルートは直進ルートのラフオープンハッチを回避できる上に、走行可能度や難易度では有利なルートと言えるだろう。

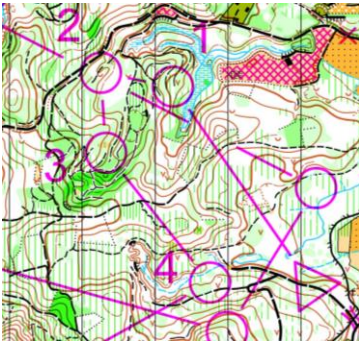


完成版のMEL(青は修正前)

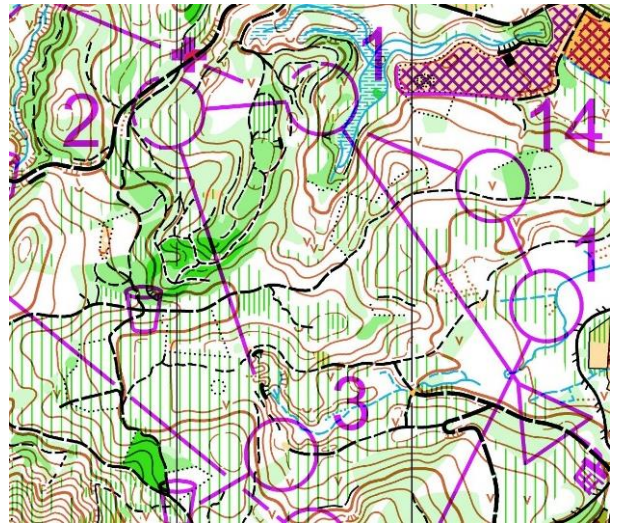
決めつけ注意！

～草刈りで切通しを開通してみた～

東側は既存エリアだからと、記憶でオリエンした選手はいただけるか。実は、夏に藪で通行が困難になることで有名な、8/12版3番付近の切通しエリアに、草刈りによる修正を入れていたのだ。



8/12時点のMEL



完成版のMEL

注目すべきは切通しと周辺の表記。

一部では小径へと変わっているのがお分かりいただけるだろうか？

切通しの両側が白抜き（A藪）になっているエリアでも、地図に忠実になるように、見通しをよくする草刈り修正を行った。

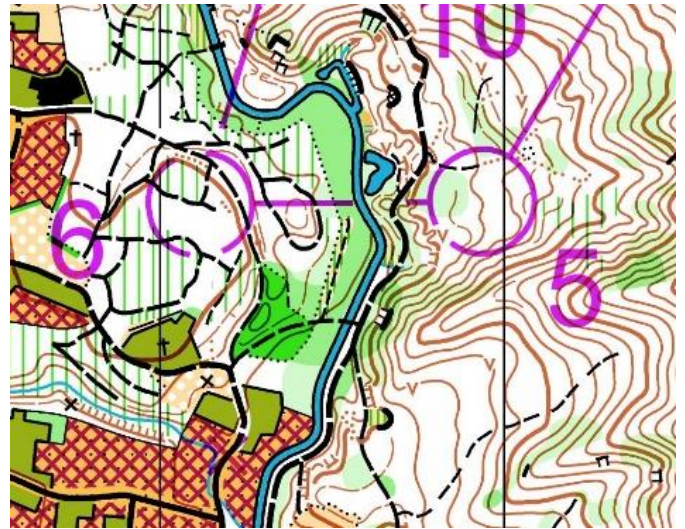
これにより、完成版の2→3では距離と登高を削るルートがベストルートとすることができた。

当日に草刈り後の切通しや小径を走った方は、左右の明らかな草刈りの残骸などから運営の頑張りを察していただけただろう。草刈りを手伝ってくれた運営に感謝したい。

完成版5→6についても一段とこだわった。

6番のエリアは、西側エリア共通の特徴としての見通しの良さが際立つが、木が少ないためか川の反対側ともまた異なる比較的明るい風景が広がる、ぜひ通したいエリアだった。

このエリアは小径が発達していたため簡単になりがちだった。Eクラスのコースを組むには、コントロールを微地形に置くか、小径の終わり、分岐、曲がりなどに置き直進でアタックさせるなど工夫をする必要があった。



6番の手前（東）に計曲線で表現された段差があり、下から6番の方向が見えないことに着目し、道を左から大巻きするルートと、川を渡ってから「オープンハッチの切通し→ピーク（もしくは沢）→直進」の難易度は高いが距離が短いルートでの選択を課すレグを作ることにした。（オープンハッチの切通しは、草刈りの努力が認められて小径になったようだ。）

上位者のルート（別紙参照）を見ても、このルートを選択して頂けたようだ。

この切通しの草刈りに女性を送り込んでしまう配慮の欠けた人員配置のせいで蜂？アブ？に刺されてしまった運営の二人にお詫びと感謝を申し上げますい。。。

<おわりに>

いかがでしたでしょうか。

これにて本大会コースプランナーとしての作業は一段落ですが、たくさんの反省点が残ってしまいました。

試走会のフラッグ撤収で振り忘れがあり、後輩に指摘された上に取りに行ってもらったこと...、試走慣れしてしまったことに気づかず土壇場でウイニングを短縮してしまったこと（変えなければドンピシャだったのに...）、隣ポを作った結果WELの6番で出戻りがベストルート候補になってしまったこと...（MELと同じ位置に戻したくて仕方ない）、そしていつもコース修正が試走会当日ぎりぎりまで続いてしまったこと、等々きりがありません。

ですが、こんな美味しいところ取りの仕事をやらせてもらえて幸せです。そして何より、大会当日が無事に終わって良かったです。お疲れ様でした。

ご意見等、大歓迎ですので、大会アドレスやSNSなどからぜひご連絡ください。お待ちしております！

令和元年10月8日

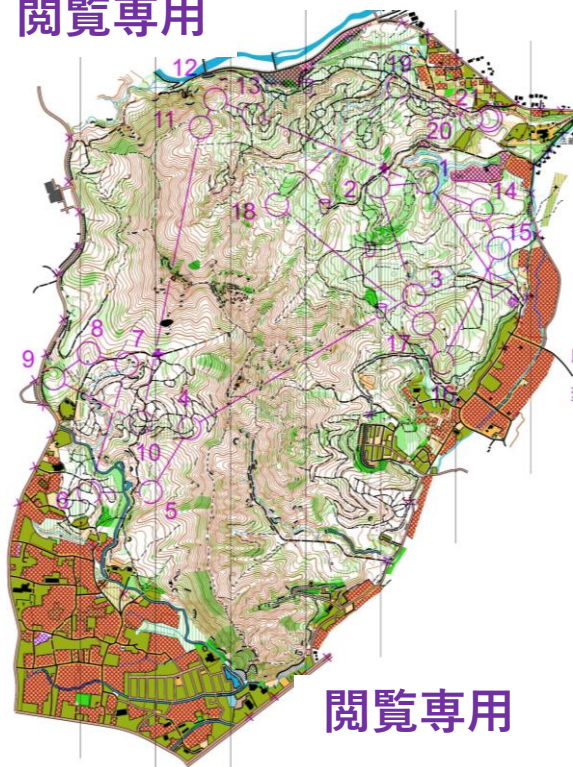
農工大OLC39期・櫛会
早川徹彦

< MEL / WELのコース図 >

MEL 9.2km ↑490m

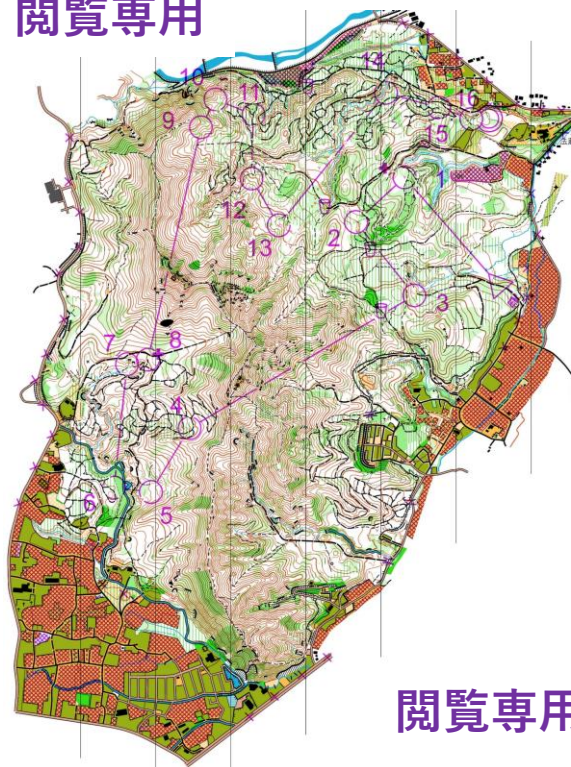
WEL 6.2km ↑385m

閲覧専用



閲覧専用

閲覧専用



閲覧専用